



指導班だより

今回は、7月13日（金）に訪問した白石市立越河小学校5学年算数の授業研究事後検討会について紹介いたします。ワークショップ形式で、話合いの内容と進め方を明確にし、成果と課題をマトリクス的にシートで類別する方法を取り入れていました。

研究主任による成果と課題の全体共有と次の研究授業に向けた確認等が適切に行われ、協働研究者として「授業づくり」への高い意識を持って充実した話合いが行われた事例でした。

※課題分析シートの活用は「授業改善・授業力向上を目指す校内研究の進め方～協働の授業づくりを通して～」平成30年3月大河原教育事務所発行参照 ぜひ裏面を参照してください。

<研究主題と視点>

筋道を立てて考え、意欲的に表現しようとする児童の育成（2年次）
～算数科における「越河スタイル」の実践を通して～

【視点】一人一人の考えを生かしながら理解を深めさせる集団解決の工夫（学び合い広場）

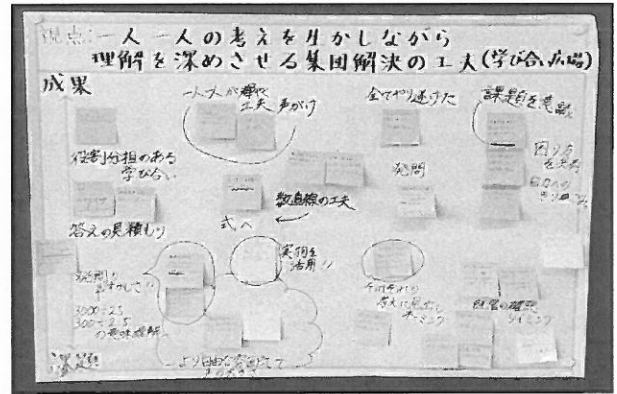
- 「学び合う」段階における教師の役割（つなぐ発問、意図的指名）
- 学習形態 □考えの共有化の方法 □意見交換を活性化する児童の話型
- 「学び合い」の系統性（発達段階ごとの目標づくり） □何でも話せる集団づくり（学級経営）

<事後検討会の流れ 40分設定>

- 1 開会 2 自評【3分：授業者】
- 3 グループに分かれての話し合い【20分】・・・研究主任がワークショップの進め方を確認

- ①「グループリーダー」「記録」を決め、リーダーを中心に進めます。
- ② 順番に自分が書いた付箋紙の内容を簡単に紹介しながら、シートに貼っていきます。
- ③ 意見を交換しながら、付箋紙を分類していきます。
- ④ 分類した付箋紙をマーカーで囲んだり、言葉や記号でまとめたり、小見出しを付けたりして視点ごとに成果と課題をまとめます。「こうしたらよいのでは」という改善点を入れるなど、次につながる前向きな話し合いを行います。
- ⑤ リーダーを中心に3分程度で発表できるようにまとめます。

※授業者は、各グループを巡回し、話合いの概要をとらえたり、質問に答えたりしてください。



※成果（水色）課題（ピンク）その他の気付いたところ（黄色）を焦点化して協議する。
全体共有は、各グループから「次につながる前向きな視点」で発表してまとめる。

- 4 全体共有（各グループからの報告）【3分×2グループ】
- 5 成果と課題の確認【3分：研究主任】
- 6 指導講評【8分：指導主事】 7 閉会

○研究授業の検証（Check）→検証方法の工夫をしましょう

- 学年別グループや教科別グループ、年代別グループなどでの協議も考えられます。
- 授業参観カードを用いて全体で話し合う方法や、付箋紙等を用いて成果と課題を類別していく方法など、協議の仕方はいろいろあります。
- 自由な意見交流からよりよい考えを創造できるようにすることで、協働性が高まっていきます。



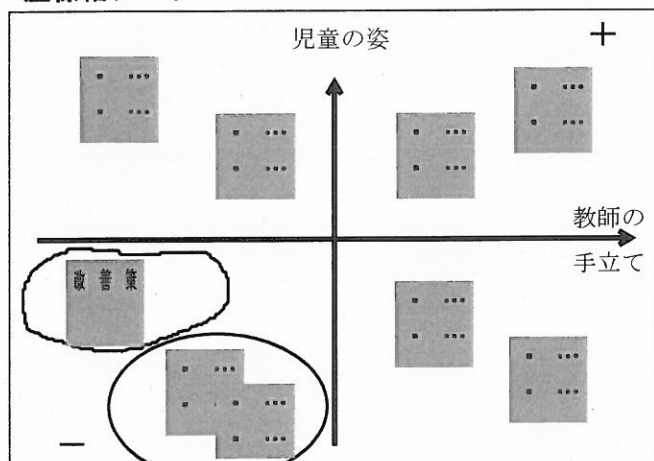
協議内容を「見える化」することで、短時間でも全体での共有が図られます。学校訪問等でも積極的に活用してみたいかがでしょうか。

・マトリクスシート

	検証の観点1	検証の観点2	検証の観点3
成果			
課題			
改善策			

- マトリクス表を用います。
 - 行には「検証の観点」など、列には「成果」と「課題」、「改善策」などを設定します。
 - 付箋を整理しながら焦点化していきます。
- 校内研究等の視点検証に有効です。
- 事前に検証の観点を共通理解しておくことが大切です。

・座標軸シート



- 縦軸と横軸の二次元軸を設定します。
 - それぞれの軸に検証項目を設け、正負領域で付箋を整理し焦点化していきます。
 - 焦点化した内容の改善策を協議していきます。
- 校内研究等の視点検証に有効です。
- 検証の観点に沿って、複数のシートが必要になります。